

三番瀬・海辺のボランティア講座 第13回報告書

3月12日は、第13回講座「ワカメの収穫」を予定していましたが、三番瀬にも地震や津波の被害があり、中止にしました。

地震の当日は案内所におりました。防災無線で津波の情報が繰り返し流れ、海側には市川市の職員が張り付き、海側への立ち入りを規制していました。企業の人たちは市川塩浜駅周辺に一時避難。会社には帰れず、市内の小中学校が避難所となり、一夜を過ごしたそうです。

翌日、ワカメの収穫で船を出してもらった予定だった行徳漁協の澤田さんから、「漁港周辺がめちゃくちゃだ」と情報が入り、確認に行きました。道路には砂と水が噴き出し、陥没しているところもあります。漁港も堤防も大きく壊れていました。津波の影響というより液状化と護岸の老朽化による被害だと思われます。塩浜の護岸の危険性は以前から指摘されていて、地元は修復を臨み、そのチャンスもあったのに、「大丈夫。安全」という人たちが強行に改修を拒んでいました。人災です。

ちなみに、修復が済んだ護岸は、(立ち入りができなかったので確かなことは言えませんが)遠目には大きな被害はありません。ただ、石積みの形がかわっています。石が動いたようです。

江戸川放水路の栈橋が、船が係留されたまま流され、船橋のノリ網に突っ込み大きな被害を出しました。漁港に係留していた船も何隻か津波の引き波で転覆しました。船橋漁港でも船に被害が出ています。

また、浦安から、市川、船橋、習志野、千葉の湾岸の住宅街は液状化で相当深刻な被害が出ています。情報収集に努めるとともに、私たちにできることがあれば、行動に移し、三番瀬と三番瀬に向き合う街の復興に協力したいと考えています。協力をお願いします。

P S .

漁場を見に行った漁師さんの話では、のりひびが倒され、折れてて網が流され、ノリ養殖は壊滅的な被害を被ったそうです。それから、12月に種を付けたワカメもコンブも、移植したアマモも流されてしまったようです。

被害の様子



護岸が傾き、取り付け道路との間にすきまができた (行徳)



液状化で泥が吹き出した。道路に亀裂が入っている



取り付け道路が陥没している



護岸が海側に膨らんでいた



突堤が斜めに。海底が隆起したか？



突堤に割れ目ができていた



船橋漁港。津波の引き波で船が乗り上げてしまった



乗り上げた船をクレーンを使って元に戻す。
幸い水に浮いた



船から重油が流出。船に乗っていたさまざまなものも海に落ちた



NPO三番瀬のダイバーが協力して船から
落ちたものを拾い上げた

